巻　頭　言

# 常在戦場と米百俵

公益財団法人日本植物調節剤研究協会　理事
北陸支部長
**長澤　裕滋**

今年の冬は積雪が多く，しかもそれが短時間のうちに積もったことで閉口しました。また，あちこちで交通障害や大雪による被害も多発しました。

支部のある長岡市の最深積雪値は昨冬 2020 年 2 月 8 日に僅か 23cm であったのに対して，今冬は 2021 年 1 月 11 日に 145cm となりました。その後，気温が高く，日照時間も多くなり，北陸地域で 2 月下旬の降水量は統計開始以来最も少なく，日照時間は第 2 位の多照となりました。3 月も暖かく，新潟県では月平均気温が高いほうから極値順位更新をした地点が多くなりました。結局，今年の冬は気温が高く，日照時間は多かったと総括されています。大雪から一転して，北陸地域でも全国と同じように桜の開花が非常に早まりました。

また，この稿を書いている最近，梅雨入りが続々と発表されていますが，近畿地方では統計開始以来最も早く，九州北部から東海までいずれも平年より 3 週間も早くなっています。

気象庁からは線状降水帯の発生など顕著な大雨に関する情報が発表されていますが，全国で土石流や土砂崩れ，河川の氾濫や浸水被害が多発しています。様々な災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに，一日も早い復旧を願うばかりです。

報道を見ていると，「ここに何十年も住んでいるが，こんな災害は初めてだ。」という言葉を耳にします。気候の極端な変動幅が身近になっていることを感じさせられています。

さて，「常在戦場」という言葉をお聞きになったことがある方も多いでしょう。字が示す通り，「常に戦場にあるの心を持って生き，ことを処す」という意味です。かつて長岡藩（新潟県長岡市）はこの「常在戦場」の 4 文字を藩風・藩訓としていました。長岡藩は 250 年余に亘り牧野氏が治めましたが，初代藩主牧野忠成は三河国牛久保（現在の愛知県豊川市）から興し，徳川十七将に名を連ね，譜代大名として長岡に入封（1618）しました。牛久保は周囲を群雄に囲まれ，牧野氏は常にそれらの諸将と対峙していました。

長岡藩には，三河国以来の家風を伝えた「参州牛久保之壁書」があり，「常在戦場」はその第一条に書かれています。その後，9 代藩主牧野忠精は「戦の庭にあるぞと　常に只（ただ）おもふ心をたもて武士（もののふ）」と一首詠じています。また，忠精の侍講高野余慶は「家中の士が先祖以来の武功によって家督を受け継いできたことを常に思い，また，戦場での辛労を忘れず，今日の安息を感謝する気持ちで忠勤に励むための教戒」と説いています。

この精神を受け継いでいるのが米百俵の精神です。米百俵のエピソードは山本有三の戯曲「米百俵」で有名になり，その後 2001 年（平成 13 年）小泉元首相が所信表明演説で引用したことで再び全国に知れ渡りました。

戊辰戦争の敗戦によって長岡は壊滅的な状況でしたが，文部総督でもあった大参事小林虎三郎は「人材育成こそ敗戦国の復興には重要」として，藩の病院として焼け残った寺院に 1869 年（明治 2 年）国漢学校を創設しました。

この頃，藩の窮状を見た支藩の三根山藩（現在の新潟市西蒲区峰岡）から米百俵が送られてきました。その米を「早く分配しろ」と迫る藩士に，小林虎三郎は「国が栄えるのも，ことごとく人にある。食えないときこそ学校を建て，人材を育てる。」と説得しました。山本雄三の戯曲では一番の見せ場で，虎三郎の背後に「常在戦場」の軸が掲げられているそうです。

この米の代金や藩・知事からの資金を基に，国漢学校が新築・移設され，書籍・備品の購入にもあてられました。また洋学局や医学局なども併設され，士族だけでなく平民にまで開放されました。

戯曲が歌舞伎座で上演されたときの，虎三郎が迫る藩士を説得している一場面を再現したブロンズ像が市内（千秋が原ふるさとの森）に建立されています。市内の商店街ではこの二つの言葉が書かれた幟を見ることができます。

昨今の社会情勢や変動気象のなかでは，いつ・どこで災害に遭遇することがあるかもしれないと，日頃からの準備の重要性に改めて気付かされます。こうした厳しい状況の中でこそ，環境や社会の変化に対応した技術開発を急ぐ必要があると考えさせられます。

（出典：長岡市及び公益財団法人長岡市米百俵財団ホームページ，長岡市史通史編上巻）